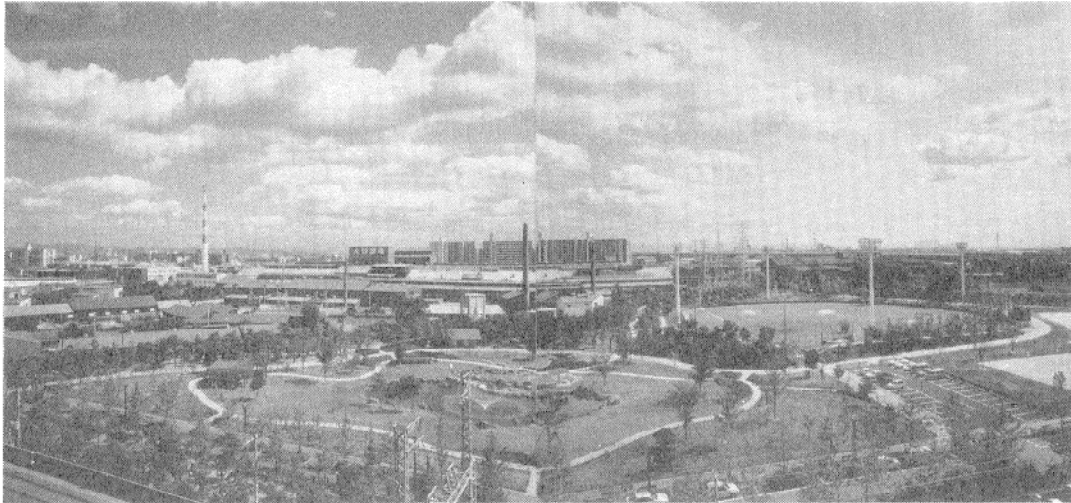


大同鋼板株式会社



中村元治*



本社・尼崎製造所

1. 会社概要

名称 大同鋼板株式会社
DAIDO STEEL SHEET
CORPORATION

設立 昭和25年2月
(東京・大阪証券取引所第1部上場)

資本金 50億8千2百万円
(平成6年2月現在)

売上高 52,659百万円
(平成4年度)

従業員数 約640名

本社 〒660 尼崎市杭瀬南新町3-2-1
☎(06)487-1717(代表)



断熱サンドイッチパネル製造の湖南製造所

建材事業部 〒541 大阪府中央区高麗橋2-3-7
☎(06)203-0751

事業所 尼崎製造所, 湖南製造所
支店 東京支店
営業所 札幌・東北・北陸・名古屋・中国・九州各営業所

事業内容

1. 鋼板および亜鉛めっき鋼板, アルミ・亜鉛合金めっき鋼板, 塗装鋼板などの各種表面



*Motoharu NAKAMURA
1937年6月8日生
1961年大阪大学工学部・応用化学
科卒業
現在, 大同鋼板株式会社, 技術開
発部, 取締役技術開発部長工学博
士, 表面処理
TEL 06-487-1717(代)

処理鋼板の製造・加工および販売

2. 上記の各種鋼板, その他の金属板および非金属材料の各種組み合わせによる複合材料の製造・加工および販売
3. 化学製品, 非鉄金属, およびセラミックスの製造・加工および販売
4. 建築材料の製造および販売
5. 建築物の設計, 監理および工事請負ならびに不動産の売買, 賃貸

2. 沿革

当社は昭和25年2月に大同製鋼(株)から分離し, 大同鋼板(株)として設立された。

しかし, そのはじめは, 富永機輔が明治32年に鉄および鉄板の輸入を目的に独自で神戸市におこした個人経営の富永商店にさかのぼる。大正13年に尼崎工業所で亜鉛鉄板の製造を開始した。

昭和9年に条鋼工場が完成し, 丸鋼, 角鋼などの中形棒鋼の圧延もはじまり, シートパーから亜鉛鉄板までの一貫生産体制が築かれ, 富永鋼業(株)に改称された。

昭和16年に大同製鋼(株)との合併により尼崎, 大阪工場となった。

昭和25年企業再建整備法により大同製鋼(株)の第二会社として大同鋼板(株)が設立され, 溶融めっき鋼板をはじめ特色のある塗装鋼板, 複合外壁, 屋根材の製造, 販売を通じて需要家に好評を得ている。

3. 事業内容

当社は主として表面処理鋼板および建材製品の製造販売を行っている。

表面処理鋼板は品質, 形状の優れたホットコイルを購入し, まず酸洗ラインで表面の酸化スケールを除去し, 冷間圧延機で所定の厚みに圧延される。この冷間圧延機は平成5年に更新され, 圧延速度が1,400m/minと世界最高の圧延速度を有する最新鋭設備である。その後, めっき工程に移される。

めっきラインは2基あり, 特に平成3年から稼働した新1号溶融めっきライン(アルミ・亜鉛合金めっき兼用)は需要家の要望への対応力

を広げるため, 多様なサイズ, 板厚の製品の製造を可能にただけでなく, ますます厳しさを増す販売競争に打ち勝つ製品が製造出来る最新鋭ラインである。

溶融亜鉛めっき鋼板, 55%アルミ・亜鉛合金めっき鋼板は優れた耐蝕性を有しており, 土木建設資材や農業施設, 産業施設資材としてそのまま使用されている。特に55%アルミ・亜鉛合金めっき鋼板はガルバリウム鋼板と呼ばれ, 1962年に米国ベスレヘムスチール社で開発された。これを日本で最初に技術導入し, 建材, 家電, 自動車関係への用途開発を行い, 当社はこのガルバリウム鋼板の日本のトップシェアを確保している。この鋼板は通常の溶融亜鉛めっき鋼板に比べて3~6倍の耐蝕性があり, 耐熱性, 熱反射性も優れており, その美しい表面の模様と相まって需要家の好評を得ている。

次に, これらめっき鋼板を用いて, 3基の塗装鋼板製造ラインで連続的に塗料を塗布した塗装鋼板, 塩ビ鋼板およびフィルムを貼り合わせたラミネート鋼板等が製造される。

塗装鋼板では通常のポリエステル系の塗料を塗布した一般のカラー鋼板の他に屋根や壁のように屋外で使用される場合に20年間塗膜の変色やチョーキング(白亜化), 赤錆が発生しないことを保証した高耐候性のフッ素樹脂塗装鋼板やガラス繊維強化フッ素樹脂塗装鋼板が開発されている。

また, 塩ビ鋼板はプレコート鋼板として, 屋根材や内外壁材をはじめ弱電機器材, 鋼製家具材に多量使用されている。

ラミネート鋼板は各種フィルムを接着剤で鋼板に接着したもので, 景観材, 内装, インテリア材, 浴室内装材, 雑貨・生活用品等幅広く使用されている。

制振鋼板は2枚のめっき鋼板の間に薄い樹脂層を挟んだもので, 振動を受けた場合, 曲げによる樹脂層の剪断ずれによって振動エネルギーが熱エネルギーに変換され, 急速に振動減衰を起こす。これは自動車のオイルパン等の低騒音化の目的で使用されている。

複合建材製品としては, ドイツの鉄鋼メーカーのヘッシュ社と技術提携し, 開発した断熱サン

生産と技術

ドイッチパネルがあり、これは断熱外壁のイソバンド、断熱屋根のイソダッハとして販売しており、国内で最大の販売実績をもっている。これらは当社で製造している塗装鋼板の2枚の間にウレタンフォームまたはヌレートフォームを連続的に充填して製造される。

このサンドイッチパネルは断熱性が非常に優れており、今、室内外温度差が40℃、室内湿度80%の時にはイソバンドでは35mm厚みで結露しないが、発泡コンクリート(ALC)ではその7倍以上の274mmのパネル厚さが必要になる。また、15mまでの長尺が製造可能であり、しかも11kg/m²と軽量であり、内外面とも塗装鋼板を使用しているために施工現場での塗装が不要となるため、非常に優れた施工性を有している。このため、今後の省エネ、省力、プレハブ化等の時代の要請にあった複合建材であり、事務所・工場・倉庫・店舗の他にシビアな温度調整の必要な恒温恒湿空間設営、完全無結露空間設営、クリーンルーム設営、冷蔵・冷凍倉庫等幅広く利用され、今後ますます発展が期待される製品である。

しかし、これらのパネルはウレタンフォームの発泡剤として特定フロンや代替フロンを使用しているが、これらのフロンを使用しない完全ノンフロンパネルの実用化にとりくんでいる。

また、これらのパネルはウレタンフォーム等の有機樹脂を使用しているため、耐火構造物への使用が不可能である。このため、現在、耐火構造物にも使用が可能な長尺耐火パネルを開発中である。

当社は塗装鋼板の用途開発のため、金属屋根用として、横葺きタイプのエバールーフI、II、III型、円筒葺きのエバールーフ「ほんぶぎ」、スレート屋根のリフォーム用のエバールーフ「やまなみ」、折板屋根用等、外壁用として、ボルト隠蔽タイプのエバーサイディング「なみき」等の成形機を開発し、特約店、施工業者へ提供している。

当社は表面処理鋼板の販売から「建材の大同」を目指し、鋼板の特性を熟知した建築構造にも踏み込んだ施工方法の立案や鋼板の意匠性を活かした設計等で一級建築士事務所として、建材・建築方面の技術開発を強化している。

